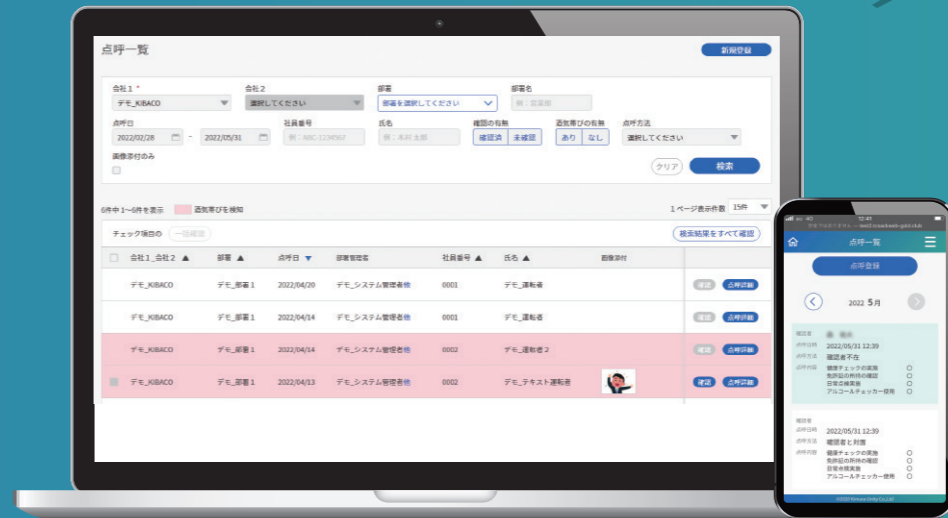


「KIBACCO」を通じて 飲酒運転を撲滅



道路交通法の改正により、すでに運転前後の目視による確認と、記録の1年保管を義務付けられているが、10月以降は、さらにアルコール検知器を用いた酒気帯び確認がマストとなる。これは、運用管理を見直す絶好の機会だ。自社の対策は万全だろうか？車両管理のDXを一気に進めるサービスを紹介しよう。



運転者は点呼内容(カスタマイズ可能)にチェックを入れるだけ。管理者側はデータを一覧で確認できる。酒気帯びを検知するとデータ上に赤く表示されるのでわかりやすい



キムラユニティー株式会社
トータルカーサービス事業本部
ストラテジック・クリエイション
セクションリーダー
田代 豊さん

点呼機能の追加実装で 規制の改正に対応

キムラユニティー株式会社は一八八一年創業。現在は「物流」「自動車」「情報」「人材」という四つの領域で事業を展開している。中でも自動車サービスに関しては、車両リース、車検整備、保険、カー用品販売、事故防止のためのコンサルティングなど、包括的に網羅する基盤の厚さが最大の強みだ。そのキムラユニティーが提供するのが、クラウド型車両管理システム「KIBACCO」(キバコ)である。データの活用による「安全・安心、コンプライアンス、コスト削減」実現を目指したサービスで、幅広い事業展開で培ったノウハウの全てがここに集約されている。同社の田代豊さんに、その機能を聞いた。

「車検整備、保険、ETCやガソリンのカード類、免許証情報など、車両タスクの管理全般のほか、eラーニングで運転者の安全意識を高めるサービスにも注力しています。またビッグデータを使って業種別・保有台数別に他社と車両コストを比較できるのですが、自社のコストが最適であるのかどうか可

目前に迫る アルコールチェック義務化

四月から全ての社用車を対象に、運転前後の運転者の状態を目視で確認(点呼)し、一年間の記録保管を義務付ける改正道路交通法が施行されている。10月にはさらに段階が上がり、酒気帯び確認をアルコール検知器で実施すること、常に正常に機能するアルコール検知器を備えることが付け加えられる予定だ。安全性の追求は事業者にとつて大前提ではあるが、「車両管理者もドライバーも今より負担が増える」と頭を抱えていないだろうか。

たとえば、直行直帰がメインだったら点呼記録はどこで管理すればいいのか。アルコールチェックのすり抜けやなりすましの対策は？もし、あなたの会社が紙ベースで車両運用記録を管理しているのなら、規制改正による業務負荷は今後、間違いなく重くのしかかる。記録項目が増えて書き込む手間が増えるし、保管場所も必要だ。しかしここで思い切ったクラウド型車両管理システムに切り替えたなら、世界は一変するだろう。

視化され、対策を打ちやすくなる」と好評です。管理者用のダッシュボードには事故発生時の緊急通知のほか、リース契約や保険契約のアラートも表示され、重要なタイミングを逸することがありません。

この八月以降は規制改正に対応する点呼機能を追加実装し、アルコールチェックを強化する。運転者は乗車前にスマートフォンで点呼を行い、健康状態や免許証所持などを尋ねる10程度の質問に○×を入れたのち、アルコールチェッカーの濃度を記入する。数値が基準値を超えている場合は、管理者にアラートメールが自動配信される。また、すり抜けやなりすまし防止として点呼時の写真を添付でき、この写真は過去のフォルダからの流用が不可能な仕組みになっている。

「企業によつて点呼方法は、対面、ビデオ通話、通話+画像報告などさまざまですが、質問内容や写真添付の有無も含め、自由にカスタマイズが可能で、スマートフォン一つでどこからでも管理者への報告が完結する仕様で、直行直帰やテレワークのニーズに応えました。クラウド上でアップロードされたデータは自動的に一年間保管されるので、もう膨大な紙資料の保管場所は必要ありません」

アルコールチェッカーは、ハンディー型、据え置き型、通信型など多様な製品が市場に出ているが、どの形態のもので、KIBACCOでクラウド管理ができ

図表 レピュテーション保険の補償内容一覧

支払限度額	1事故・保険期間中 5,000万円
免責金額(自己負担額)	なし
縮小支払割合	80%
※制度全体・保険期間中 1億円程度	
以下の各費用等を補償	
<input checked="" type="checkbox"/> 第三者委員会設置・活動費用	<input checked="" type="checkbox"/> 弁護士相談費用
<input checked="" type="checkbox"/> ネット投稿削除費用	<input checked="" type="checkbox"/> 危機管理コンサルティング費用
<input checked="" type="checkbox"/> 緊急謝罪会見・社告費用	<input checked="" type="checkbox"/> 原因調査費用・信頼回復広告費用
<input checked="" type="checkbox"/> 危機対策本部設置支援費用	

[引受保険会社] 東京海上火災保険株式会社

る。同社はカー用品も扱っており、予算に合わせたアルコールチェッカー機器の調達も含め、今抱えている車両関連の悩みに幅広く対応可能だ。

レピュテーション費用保険で 企業の信頼回復をサポート

KIBACCOと他社を比べたときの大きな違いの一つが、eラーニングによる安全教育の提供だ。キムラユニティーは昨年六月、横断歩道上で歩行者が車に接触する事故の多さに着目し、「道路法第三八条 歩行者優先」という法律を一人でも多くのドライバーに守ってもらおうと「RESPECT THE

LAW 38」というプロジェクトを発足した。呼び掛けに賛同し、事故防止のための取り組みを実践する企業や団体、個人は増え続けている。歩行者が当たり前に優先される社会への想いは強く、それを体現するのがKIBACCOに標準装備された運転者の安全教育なのだ。

しかし、人のすることに完全はない。アルコールチェックの網をすり抜けた、飲酒運転による事故が絶対に起こらないとはいえないのだ。そこで同社は新しい試みとして、KIBACCOのアルコールチェックシステムに、東京海上自動車火災保険株式会社と共同開発した業界初の「レピュテーション費用保険」特約を無料で付帯することにした。レピュテーション費用保険とは、企業の信頼回復のための再発防止の体制構築にかかわる費用を補償する保険だ。

「飲酒運転による事故が発生した場合、刑事・民事・行政上の責任に加え、企業は社会への責任を問われることとなります。再発防止策の実施、また抗議電話の殺到や企業価値を毀損するSNSの投稿拡散が予想され、書き込みの削除依頼、謝罪会見の費用などが生じるでしょう。レピュテーション費用保険は、ドライバーが虚偽の申告をして飲酒運転による事故が発生した場合

合、保険期間中の一つの事故に対し、500万円を上限として補償するものです」

弁護士や危機管理コンサルタントへの相談料、原因調査費用、信頼回復広告費用などを考えると、万が一に備えてこうした補償があることは、心強い。システムに自動的に付帯され、なおかつ無料であれば、稟議も上げやすいのではないだろうか。

KIBACCOのシステム使用料は、月額三万三〇〇〇円。点呼機能はこれに加え、1ID当たり月額五五〇円だ(いずれも税込)。さらに今なら点呼機能を含め、KIBACCOの全ての機能を六か月無料で試すことが可能なキャンペーンも実施中(新規申し込みに限る)。エクセル入力に時間をかける時代とは今すぐに決別したい。KIBACCOを軸にした最適な運用フローへの変革を通して、車両管理DXは一気に現実のものとなる。

お問い合わせ

キムラユニティー株式会社

フリーダイヤル(平日9:00~17:00)
0120-777151



<https://www.carmanagementservice.com/alcohol-check/>